



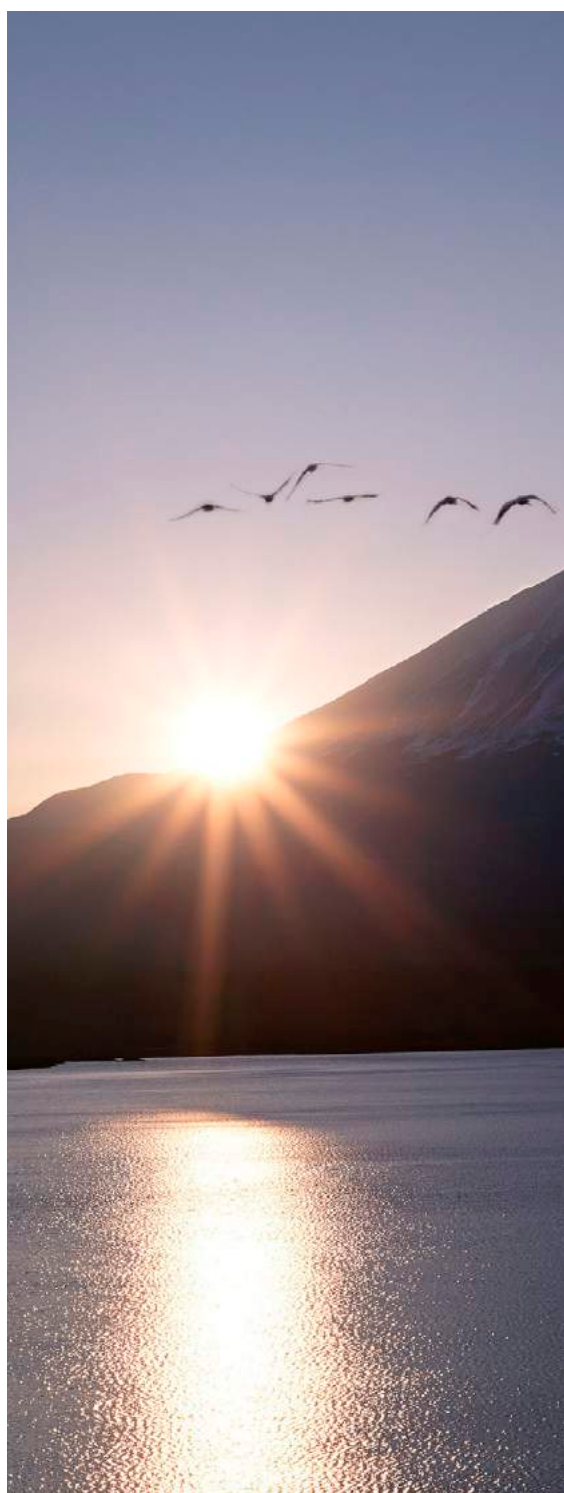
朝日学園 連合 PTA 広報誌

Trinity

トリニティー

Vol.1

2010 Spring



CONTENTS

- 1 — 創刊にあたって
- 3 — 座談会「朝日学園を語る」
- 5 — 幼稚園
- 9 — 小学校
- 13 — 中学高等学校
- 17 — 朝日学園行事一覧(H21年度)
- 19 — 数字で見る朝日学園
- 21 — 学園歌
- 23 — 朝日学園教職員一覧(H22年度)
- 24 — 朝日学園の歩み
- 25 — 教育の現状と新しい取り組みについて
- 27 — 卒業生を囲む会
- 29 — フォトアルバム



朝日学園連合PTA広報誌 「Trinity」創刊にあたって

2008年夏。鳥海学園長、各校園長、各单位PTA代表が一堂に会する機会がありました。その場で各校園が連携を図り、協力することで朝日学園の発展に寄与したいという思いが一致しました。そして、その具体的な活動について、語り合えばあうほど気がついたことが一つ。それはお互いの校園についてあまりにも知らないことが多すぎるということ。まずは知ることから始めよう。それが連合PTA発足の第一歩となり、2年の月日を経て、広報誌創刊へとつながっていきました。

「Trinity」は三位一体を意味する単語です。幼稚園・小学校・中学高等学校の3つのPTAが一体となって朝日学園の子どもたちを支えていきたいという願いをこめて誌名にしました。またその三位は、各校園の教職員・保護者・子どもたち（同窓生も含めて）の意味でもあり、それぞれが各校園の枠をはずして一体となることをも願っています。

お互いのさらなる理解への架け橋として、広報誌の創刊です。
「Trinity」が離れた地にある三校園をつなぐ一助となるよう祈念して。

2010年4月

幼・小・中高 ともに学び、ともに歩む。



「朝日学園を語る」

平成21年12月4日 朝日塾小学校にて

出席者

- 鳥海十児（とりうみ・みつじ）学園長
- 安田英祥（やすだ・ひでよし）中学高等学校PTA会長
- 田中享子（たなか・きょうこ）小学校PTA会長
- 菅野由起（すがの・ゆき）幼稚園PTA会長

幼小中高一貫教育をより充実したものへ高めたい

安田 幼小中高が揃った今年度から、各単位PTAも協力体制を作ろうと連合PTAを立ち上げました。学園長としては「朝日学園」のこれからの展開をどのようにお考えでしょうか。

鳥海 私の人生の目標は、幼小中高一貫教育の体制作りです。今年度高校3年生まで揃い、目標が形となったので、これからはその中身を充実させることが課題となっています。また、中高の学校法人化も課題の一つです。この件で、今週も東京へ行きました。

安田 そのために何度も東京へ足を運ばれていらっしゃると思いますが、様々なメリットがうまれる学校法人化の話の感触はどうですか。

鳥海 特区の学校への評価がはっきりとしていないのが現状です。今月（12月）の特区評価委員会の最終結論をまたなければ、特区学校という制度をやめるかどうかは決まりません。特区学校の学校法人化を目指すという答申を出すとは思いますが、民主党になって、小泉構造改革を否定したいわけですからね。株式会社为学校が全国に30校ほどありますが、そのうち義務教育に入っているのは朝日塾中学校と神奈川のLCA小学校だけです。ほとんどが大学、大学院あるいは通信制の高校です。岡山県も神奈川県も財政上の問題で、私立設置に関する県の条例が厳しいし、私学審議会は新規参入を好まないというのが現状ですが、来年の3月には政治的判断が出ます。特区の学校法人化を目指すということにして、それから行政で検討していくという形になることが第1希望ですが、第2希望としてはイコールフットイングつまり学校法人とイコールとみなすという形となることを考えています。※H22.3月学校法人化へ一歩踏み込みました。（5月末には認可申請書を提出予定）

個性を伸ばすハイレベルな教育を目指す

安田 学校法人化の課題は、今は政治的判断を待つという状況ですね。それでは、もう一つの課題である学園の「中身の充実」ですが、具体的な内容をぜひお聞きしたいですね。

鳥海 「個性を伸ばす教育」という建学の精神を堅持していきながら、さらに「個性を伸ばすハイレベルな教育」を目指しています。朝日学園は朝日塾という塾が母体であり、塾の中にあつた幼児教室を幼稚園にしました。そこで育つ子どもたちの出口である進学先として小学校を設立していったわけです。そう考えると幼小中高の出口である大学の進学先はとて大切で、そこが超難関大学となるように指導をしています。ただし予備校ではないので、大学を出たあとの生きるために必要な基礎的なものも身につけさせなければいけません。

安田 「生きる力」も身につけさせるということですね。

鳥海 学力をつけるというのは、入口の問題です。つまりどの学校に入れるようにするかということです。それも必要ですが、その後人間として生きていくために必要なものを身につけさせることも大切。だからこそ、中高には全国で初のディスカッション科という教科を設置しました。人の意見をしっかりと聞け

る。そして自分の意見を調整することができる。そういう人間を育てたい。小学校でいうと今年度から設置した「一貫コース」の内容ですね。さまざまな実体験を重ねながら、人生の先の方を見据えた指導を行っています。

田中 PTA行事の朝日塾中高見学会で、一貫コースの児童がディスカッション科の授業を受けているのを参観しました。生き生きとした表情で、はっきりと意見を発表する子どもたちの様子が印象的でした。人の意見をしっかりと聞き、自分で考えて、それを発表する。互いが互いを認め合うという集団ができていることにも好感がもてました。

菅野 校園の枠を越えての活動ができるのはいいことです。園児もよく小学校へ行かせていただきますが、大変楽しいようです。

安田 同一学園であることの良さですね。ただ同じ質の子どもたちが集うという環境はどういう影響を与えるのでしょうか。



鳥海十児学園長

安田英祥中学高等学校PTA会長

鳥海 実は同じ質の子どもたちが揃っている方が、学力を伸ばすという面ではもまれやすい環境であるとも考えられるのです。昔の小芋の皮の剥き方をご存じですか。水を張った桶の中に小芋をたくさん入れて、X状に組んだ棒を入れてかきまわすときれいに皮が剥けます。小芋がお互いに擦れあつてきれいになっていくのです。その時に同じ位の大きさのものの同士の方がきれいになりやすい。同質である、つまり質の幅の開きが少ない方がよいということです。私立に通う子どもたちということで、目標も近い子どもたちが多い。その子どもたちが受験勉強というハードルを越えるために、友達との採まれ合いの中で、それがいじめになるのではなく、お互いに成長し支え合える経験となります。棒を回すのは大人の力ですが、皮がきれいに剥けるのは子ども同士の力です。

一生の友をつくる

安田 切磋琢磨できる仲間、本気でつき合える仲間ができるということですね。

鳥海 私立の難点をいえば、全然質の違う子どもとのふれ合いが少ないということですが、それよりも最長で16年間つき合った仲間ができることの意義は大きいと思います。一生の友が何人かできる環境であつてほしいです。今年の高校3年生には幼稚園からずっと朝日塾という生徒がいます。

安田 この朝日学園で何年も過ごし巣立った子どもたち、卒業生のみなさんにも生きていく上での目標となるものを示していただけるとありがたいですね。目標がはっきりすれば、学園全

体でそこに向かっていくという意識ができますから。

鳥海 この学園から社会に出て、日本の国のためだけではなく国際社会、人類のために役立つ人間となつてほしいです。その基礎をこの学園で作れたらうれしいです。

安田 感謝の気持ちや社会に貢献するという意識を、子どもたちにも朝日学園の保護者にももっていただきたいですね。

鳥海 子どもも保護者も近い目標の受験に目が向いてしまいがちですが、その先も見つめていくことをしなければ。勉強だけの学校にはしたくないです。勉強も一つの柱ではありますが、もう一つの柱はごみ拾いやトイレ掃除などのその年齢のできる社会貢献です。他人を思いやれる人間に育つてほしいです。その結果として、遠い夢ですが、国連の事務総長をこの学園の卒業生から出したいと思っています。

安田 その柱を支えるために、連合PTAとして協力できることをやっていきたいです。

鳥海 ありがとうございます。連合PTAができたことで、幼小中高という全体の流れの中で、様々なことを考えることができるようになりました。職員間でも、そういう意識ができてきています。目先ではなく全体を、短期的よりも長期的な眼で子どもたちを見ることができるようになりました。

安田 短期的に見れば、受験の結果というものが実績として出しやすいものです。その中で長期的展望にたつことは難しいでしょう。



田中享子小学校PTA会長

菅野由起幼稚園PTA会長

鳥海 そうですね。受験実績がなければ私立はやっていけませんから。一貫コースを作る時は、発想の切り替えが大変でした。中学受験の実績を積み上げている中で、中学受験ではなくその先を見据えた、じっくり育てる教育を取り入れたわけですから。その一貫コースの授業内容が県立一貫校の適性検査の内容と偶然にも非常に合っていました。やはり時代の意識が変わりつつあるということでしょうか。

安田 この一貫コースは6年生からですか。その前の学年からということは考えておられませんか。

鳥海 将来的にはいろいろと考えています。難関中学への受験を求める子どもにも、中学受験よりもその先をもとめる子どもにも、どちらにも対応できなければいけません。それぞれの個性に応じた教育をするのが私立ですから。

安田 現在の高校3年生に対しても少人数教育の良さをいかした、一人一人の個性に応じた本当にきめ細かい進路指導がなされています。ここまで親身に指導してくれる高校は他にはないのではと思います。そしてそれに伴い結果も出てきていますから、これから期待しています。現時点でII類の生徒からも医歯薬系の合格が出ていますね。

鳥海 これからセンター試験ですから、その結果を楽しみにしています。やはり少人数教育の良さがいかされた結果になると

思います。

充実している幼稚園教育

安田 中学校でも入学時の偏差値が40位の生徒が、高校になって60という偏差値をとれるようになっています。やはりその生徒の個性にあつた教育をされていることの結果でしょう。ところで個性に応じた教育という点で、幼稚園はどういう感じですか。

菅野 大変充実していると思います。はじめての集団生活で心細い子どもたちの様子をしっかりと見てくださって、一人ひとりの個性に応じた教育をしてくださっています。

田中 幼稚園では、様々な行事がありますよね。

菅野 その行事を通して、目には見えない心の部分が育つていると思います。

鳥海 その行事ですが、幼稚園は園児が幼いためにどうしてもPTAの協力が必要になります。

菅野 園の行事をお手伝いさせていただいていますが、園長先生がいつも言われている「幼稚園は木の根っこです。たくさん経験をして、卒園後どんな壁にぶつかっても立ち向かっていける力をつけてほしい」という言葉通りの教育内容が実現していることを実感します。特に生活発表会はすばらしいです。年少から年長とその成長ぶりがはっきりとわかります。ぜひあの合奏を皆様聞いていただきたいです。

鳥海 合奏は全国に出しても恥ずかしくないです。とにかく、あのすばらしい園児を見ていて小学校を作ろうと思ったわけです。

田中 その思いから作られた小学校が、6学年に3クラスが揃うという規模にまでなつたのです。小学校の教育環境のすばらしさが認められてきた結果だと思っています。育児情報誌「ちあ〜ず!キッズ」に本校の児童が何度か取り上げられていますが、どの児童もきちんとした目標を持っていることに感心します。保護者の方の教育に関する考え方も非常にはっきりしています。だからこそ、本当に広い通学地域をもつ小学校になつたでしょう。H22年度からは津山からも直通のスクールバスを運行させる予定と聞きましたが。

鳥海 さまざまな地域の方のご要望にもお応えしていきたいと取り組んでいます。

田中 地元の公立ではなく、あえて選んで朝日塾小に通学させる保護者の気持ちに学校側はもちろんですが、PTAとしても応えていかなければとその活動内容を日々考えています。

安田 その各単位PTAがお互いに理解し合い協力しようという考えで、できたのが連合PTAですが、今後の活動に期待することがあれば教えてください。

鳥海 幼小中高という流れの中で子どもを育てていくという意識を、教職員も保護者も持つことができる機会になると思います。

安田 確かに連合の活動によって幼稚園や小学校のことがわかり、その結果中学高校の今がよりよくわかることもありました。よかったと思います。

田中 園児を見ると、我が子の成長の過程を確認することができますし、中学高校生を見ると、成長の先にある将来像を想像することができます。長い時間軸で子どもの成長を考えることができるのはありがたいですね。夏に卒業生である現役東大生をお招きしての会を開きましたが、子どもたちにとっても自分の何年後の姿を具体的に想像できる機会になつたと思います。

安田 全体を見ることで、子どもたちにより良い教育の場を与えてやることができます。我が子の母校となる朝日学園の発展のために、3つのPTAの相乗効果を期待しましょう。